

関西大学法学研究所 第41回公開講座

グローバル化と テロリズムの脅威

日本政府は、テロリズム活動を未然に防止するためのアクションプランを作成しているが、テロリストを入国させないための対策、仮にテロリストが入ってきた場合でも、自由に活動させないための対策、テロリズムに使用される物質の管理強化、テロリズム資金の封じ込め、重要施設の防護強化、情報収集能力が掲げられている。日本の場合、オウム真理教のテロリズム行為があったが、ホームグロウンのテロリストによるネットワークが活動するという大きな脅威はあまりないと考えられる。したがって、テロリストは外国から入ってくるという前提に立ち、テロリストをいかに入国させないかということが非常に重要な対策となる。しかしながら、こうしたテロリズム対策は、一国で完結するものではない。国際社会との緊密な連携・協力および日本国内のさまざまな組織との連携・協力が必要である。

そこで、今回は、テロリズム対策の問題について広く理解・考察する機会とした。

報告 板橋 功 (財団法人公共政策調査会第1研究室長)

司会 羽原 敬二 (安心と安全研究班主幹・政策創造学部教授)

日時 平成22年12月10日(金)14:40~16:10

場所 関西大学千里山キャンパス 第1学舎 1号館 千里ホールB

- 聴講自由 多数のご来場を歓迎いたします。
- 問合せ先 〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 研究所事務室
TEL 06-6368-0329 FAX06-6339-7721
E-mail: hogakuken@ml.kandai.jp